



新型コロナウイルス感染症に関する人権

新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）に関連して、誤解や偏見に基づく差別が発生しています。誰もが感染者・濃厚接触者になる可能性があります。自分や家族が感染者・濃厚接触者になったときにどのような気持ちになるかを考えて行動しましょう。



新型コロナ対策のつもりが 過剰な反応になっていませんか？

新型コロナの流行に伴い、誰もが不安に包まれやすい状況が続いています。自分の言葉や行動が差別や偏見につながっていないか、「誰か」のことではなく「自分のこと」として、あらためて考えてみるのが大切です。悪意のない言動が人権侵害につながることもあります。また、新型コロナワクチンの接種が進む中、接種を受けていない人に対する差別や偏見も生まれています。これは許されるものではありません。正しい知識と情報をもとに行動することが、新型コロナから、自分や家族、周りの人を守ることにつながります。



その人は感染を広げていますか？ 憶測による差別や偏見に気付きましょう

医療や福祉などのエッセンシャルワーカー、感染者やこれらの人々の家族など、さまざまな人への心ない言動や、根拠のない情報に基づく差別・偏見が多く見られます。その大部分は日常のなかで無自覚になされる言動です。

「家族を感染から守りたい」という気持ちは誰もが持っています。そのような思いは間違っていない人々への攻撃になってしまうことがあります。

苦しむ必要のない人を苦しめたり傷つけたりする言動はやめて、互いに思いやりを持ち、正しい情報に基づいて行動することを、今、あらためて考える時ではないでしょうか。



遠賀中間地域 在宅医療介護連携
推進事業住民公開講座

「コロナ時代を共に生きる」

～高齢者の方が安心して暮らせる地域づくり～

▽とき 9月3日(土)

午後1時30分～4時

▽ところ 岡垣サン

リーアイ ハミン

グホール

▽内容

【基調講演】地域

における新型コロナ

ウイルスの現状

とポストコロナの展望

【講師】加藤千鈴さん(福岡県宗像・

遠賀保健福祉環境事務所 保健監

【パネルディスカッション】

新型コロナウィルスを想定した新し

い生活様式と在宅療養について

【座長】遠賀中間医師会病院

統括院長 杉町圭蔵さん

▽定員 250人

▽参加費 無料

▽申し込み 遠賀中間医師会在宅総合

支援センター(☎281・3100

またはファクス281・3105)



全国一斉「子どもの人権 110 番」強化週間8月 26 日(金)～9月 1 日(木)

子どもの人権 110 番



子どもの人権 110 番専用電話

☎0120-

007-

110

★無料

いじめ、体罰、不登校や虐待など子どもに関する人権問題の相談を受け付ける相談電話を設置します。法務局職員と人権擁護委員が無料で相談に応じます。

秘密は厳守されますので、ひとりで悩まず、気軽に電話してください。

▷とき 8月 26 日(金)、29 日(月)～9月 1 日(木)・午前 8 時 30 分～午後 7 時、8月 27 日(火)、28 日(水)・午前 10 時～午後 5 時

※強化週間以外でも平日の午前 8 時 30 分～午後 5 時 15 分(時間外と土日祝日は留守番電話対応)に受け付けています。

子どもがお手伝いをするということは、手伝う意欲を持っているということです。その気持ちを大切にするために「できないこと」に着目するよりも、「できたこと」に着目し、「ありがとう」と感謝することや「上手にできたね」と褒めてあげましょう。子どもは達成感や満足感を味わい、それが自信につながります。

①「できたこと」に着目して感謝しよう

子どもがお手伝いをするということは、手伝う意欲を持っているということです。その気持ちを大切にするために「できないこと」に着目するよりも、「できたこと」に着目し、「ありがとう」と感謝することや「上手にできたね」と褒めてあげましょう。子どもは達成感や満足感を味わい、それが自信につながります。

子どもとお手伝いを楽しもう

子どもがある程度の年齢になると、大人の姿を見てまねをするようになります。そうすると、洗濯物をたたんだり、料理をしたりしている時に「やりたい」と言う場面も出てくるでしょう。

子どものお手伝いにはさまざまなメリットがある一方、子どもに頼むときには注意することがあります。そこで今回は、お手伝いを頼むうえで大人が気を付ける 3 つのポイントを紹介します。

すくすく育て
あしやっ子
NO.183



▷問い合わせ 社会教育係
(☎223 - 3546)

②待つことが大切

子どもにとって初めてのお手伝いは、うまくできないことがあるかもしれませんが、もし、うまくできなくても、すぐに手伝おうとせずに待つようにしましょう。子ども自身で、どうしてもできるのか考えることも必要です。子どもの気持ちを考え、タイミングを見定めてから、ヒントを出すのもよいでしょう。

③責めないように

子どもなので、すぐに上手にできないのは当たり前です。「どうしてこんなこともできないの」と責めると、自信を失ってしまいます。まずは、どうすればよかったのか一緒に考えてあげましょう。そして、場合によっては一緒にやり直すのもよいでしょう。

子どもがお手伝いをすることで成長していくためには、大人の関わり方が大切です。子どもによってできることには個人差があり、できないからと焦る必要はありません。できることを認めながら一緒に楽しくお手伝いをするのが大切です。お手伝いをとおしたコミュニケーションを楽しみながら、子どもが成長していく手助けをしてみませんか。

